

## 祝 辞

### —学会回顧に代えて

永 谷 万里雄

学会誌No. 3～No. 14まで編集を担当させていただきました。当時はまだ揺籃期でありましたし、まだパソコンの時代ではありませんでしたので、原稿もすべて手書きまたはワープロによるもので、郵送でやり取りを行い、校正のために印刷所に足しげく通いまして連携をとるありさまでした。その後急速に技術が進み、もはやアナログの時代は終わりを告げ私の出番ではなくなりました。なにしろ私は英文タイプライターの時代の人間でしたから。今では野村編集委員長はじめ、ハイテクを駆使しての能率的な編集作業が進んでいるのを見るにつけ、隔世の感を抱かずにはいられません。また、私が編集を退いてから十年余り経ちまして、ここに見事に25周年記念論集が刊行されましたことを心よりお慶び申し上げます。この四半世紀の間、創設者の松倉先生を筆頭に、執筆に携わってこられました先生方のお慶びはいかばかりでありましょうか。次に近くは30周年さらには50周年を目指されまして、念願の会員100名を越えられ、英語英文関係の諸学会の中でも堂々たる地位を築いていかれますことを切望いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

(顧問；元編集委員長、元大会運営委員長)